

2005年2月15日

会社名 株式会社 高島屋  
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治  
 コード番号 8233

## 2005年1月度 高島屋営業報告

## 04年5月以来8ヶ月ぶりに前年実績を上回りました。

\* 2004年6月にレストラン街運営を東神開発(株)に移管した立川店の前年数値を調整し、分社4店の売上を含めた18店計前年対比を**実質**数値として表記しております。

**百貨店事業概況** 本年 -7.0 **実質** 0.5 (前年比%)

1月度は、初売りと同時にスタートしたクリアランスセールが好調に推移、年末より気温の低い日が続き防寒関連衣料・洋品の動きが良かった。18店計実質前年比は関東の好調店舗が牽引し+0.5%と8ヶ月ぶりに前年を上回った。

店舗別概況								関西計	
	関西	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋	本年	実質
売上		-2.0	-1.4	-2.8	-2.1	-3.5	-3.3	-15.1	-2.0
入店客数		-8.8	-2.1	-5.7	2.0	-5.7	-4.3		

\* 大阪店には和歌山店・堺店、京都店には洛西店の売上を含む

関東									関東計	
	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋	本年	実質
売上	8.5	0.2	0.8	7.0	-5.2	-8.5	-1.7	9.5	-1.9	2.2
入店客数	8.4	-1.6	-1.1	0.6	0.9	-6.1	-2.0	4.6		

\* 横浜店には港南台店の売上を含む

\* 立川店:実質-2.1%

<店舗別> 東京店・玉川店・高崎高島屋では、リニューアル後の特選衣料雑貨や婦人雑貨が二桁以上数値を伸ばし前年を大きく上回った。また、横浜店・新宿店も前年を上回った。関西は各地区で特選ブランドの競争激化の影響もあり全店とも前年を下回った。大阪店では婦人雑貨が+9.7%と前年を上回ったが、食料品売場改装2期工事に伴う売場・入口閉鎖が影響した。京都店では紳士服、紳士・婦人雑貨は前年を上回った。

広域事業概況	法人	通販	広域計
	3.5	-10.0	-2.9

<広域事業> 法人事業は、大型物件受注増により前年を上回り、通信販売事業は、カタログページの減少もあり、リビング・衣料品とも低迷し前年を下回った。新春号より展開中の通販55周年企画は堅調に推移した。

総計	本年	実質
	-6.7	0.3

## 商品別概況 (百貨店協会商品区分)

	本年	実質		本年	実質		本年	実質
紳士服・洋品	-6.6	0.0	身のまわり品	-3.4	3.5	食料品	-5.5	1.5
婦人服・洋品	-9.5	-1.9				食堂・喫茶	-5.4	7.5
子供服・洋品	-9.4	-1.0	家具	-1.0	3.5	雑貨	-4.0	2.7
その他衣料品	-12.9	-3.9	家電	-24.9	-20.2	サービス	21.9	25.2
衣料品計	-9.1	-1.6	その他家庭用品	-9.6	-5.0	その他	-22.0	-16.4
			家庭用品計	-8.8	-4.2	合計	-6.7	0.3

<店頭商品別> 婦人雑貨(前年比+4.2%)は「ファー」や「カシヤ」のマフラー・革手袋などの婦人洋品(同+3.9%)、婦人靴(同+2.8%)、化粧品(同+5.3%)の動きが良く、紳士雑貨(同+2.9%)は靴(同+9.1%)などの動きがよく好調に推移した。その他、紳士服(同+0.6%)、特選衣料雑貨(同+3.7%)、宝飾品(同+1.2%)、美術(同+18.6%)などが前年を上回った。一方、婦人服は東京店・新宿店・玉川店など前年を上回る店舗もあったが全店では同-1.9%と前年には及ばず、ベビー・子供(同-0.6%)、食料品(同-0.7%)も前年を下回った。